

# 道連ニュース

2014年11月号 No.101

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

## 日生協灯油問題学習懇談会報告

10月28日 2014年度の日生協灯油問題学習懇談会が東京で今年も開催されました。灯油問題を日生協の全国課題に位置づけて2回目になります。参加団体は、日生協、東北、北海道の生協関係者と行政（資源エネルギー庁、消費者庁、内閣府消費者委員会）石油連盟、主婦連、全国消費者団体連絡会の48名でした。懇談会では、第一生命経済研究所の永濱主席エコノミストが原油価格の下落、円安の相殺によって今年の灯油価格は横ばいで推移すると報告。コープさっぽろの林理事から福祉灯油の調査結果から解ったことと今後の取組について報告。コープ岩手の藤原常務から岩手における灯油使用状況と価格高騰の影響についての報告。コープサンネットの河野常務から東北関内の灯油使用

状況と価格推移、各生協の取り組みの報告。中田石油連盟広報室長から原油価格動向と灯油価格決定報告。資源エネルギー庁の加田課長補佐から原油価格形成メカニズムの変容と金融要因についての報告。資源エネルギー庁の苗木課長補佐から国内の石油製品、原油価格推移の報告。消費者庁の阿部課長補佐から灯油に関する物価モニター調査の報告がありました。その後の意見交換の中で道連(山口)は、今年6月の灯油仕切り価格決定方式の変更から除々に価格差が表れて10月22日までの累計で原油は▲8.2円/L 灯油は▲L/1.2円 ガソリンは▲6.9円/L と大きな差が出ていることを指摘しましたが、明確な回答はありませんでした。

次年度以降は、灯油問題の学習段階から灯油問題の取り組み方針（目標と行動）を設定し、方針実現のための意思統一の場に懇談会を進化させていくことが必要だと感じました。

## 労福協と一緒に山谷副知事へ福祉灯油要請交渉を行う

現に向けて努力する回答がありました。その

11月7日 北海道労働者協議会（労福協）は、勤労者の福祉向上に関わる要請書を山谷副知事に提出しました。高柳労協協理事長から北海道の勤労者が、消費税増税、電力料金大幅再値上げ、石油製品の高止まり等によって道民生活は一層厳しさを増している状況を指摘し、脱却に向けて新しいセーフティネットを構築し、安心安全社会の実現の要請を行い山谷副知事に要請書を手渡しました。労福協の林事務局長から7項目の要請内容から連帯経済を促進する協同組合の促進支援、新たな生活困窮者支援制度に向けた体制整備、セーフティネットの一環としての福祉灯油の充実をはかることの補足説明を行いました。山谷副知事から要請項目については、各部局に検討するように指示し、実

後の意見交換の場において、道連（山口）からコープさっぽろが行った福祉灯油アンケート結果から分かった事の中で、未実施21市町村へ福祉灯油の取り組みの指導、国に対して福祉灯油への補助金増額の要請をしました。山谷副知事からは、要請した2項目の実施に向け前向きな回答を頂きました。11月13日の道新記事によると高橋知事は11月13日の道議会で市町村の福祉灯油制度に対する道からの補助金を5割引き上げを表明しました。この間、様々な灯油問題の意見交換の場において、低所得者へのセーフティネットとしての福祉灯油の拡大充実について要望してきたことが成果につながったと思います。

コープ  
さっぽろ

## 3年ぶりの開催第9回「コープさっぽろ農業賞」表彰式が行われました

「第9回コープさっぽろ農業賞」受賞者表彰式が去る11月7日金曜日、札幌パークホテルにて開催されました。今回農業部門は53件、漁業部門は25件、交流部門は18件の応募に対して、それぞれ農業賞は12件、漁業賞は3件、交流賞は6件が受賞の栄誉に輝きました。

大賞に相当する北海道知事賞は有限会社大牧農場（音更町）、準大賞に相当するコープさっぽろ賞は株式会社大雪を囲む会（道内11農場による組織）に決定しました。

また今回から新設された優秀新規就農者賞は押谷農園（長沼町）、漁業賞のコープさっぽろ賞に散布漁業協同組合（浜中町）、交流賞の札幌市長賞に有限会社

多田農園（上富良野町）が受賞いたしました。コープさっぽろ農業賞は、2004年より行われており、消費者の目線で選ぶ農業賞として2011年まで8回が行われ、その後3年ぶりの開催となりました。今まで道内約100件の生産者が受賞しています。今回は、新規就農や食育への取り組みといった視点も審査に追加され、新規就農者5件が農業賞分野で受賞したのも特徴です。第10回となる次回の開催は、3年後の2017年を予定しています。



## 生活クラブ生協 ◆ わくわくまつり開催 ◆

10月26日(日)札幌コンベンションセンターにて、生活クラブ生協の大イベント「わくわくまつり」を開催しました。来場された3500人の方に、たのしく自慢の消費材や日頃の活動を知ってもらおう機会となりました。コンセプトである「つくる手 食べる手 その手はひとつ」のもと組合員と生産者がともに創り上げるのがこのまつりの醍醐味でもあり、その思いは来場・主催者を問わず会場内全ての人と共有できたと思います。

飲食コーナーでは、組合員が消費材で使った食事やデザートを提供し、その横では生産者が消費材を販売。ステージでは生活クラブ米の生産農家ともちつきを行い、大きなウズにキネがふり下



ろされる度に子どもたちの歓声が上がっていました。真っ白ツヤツヤのつきたてお餅にはみんな笑顔。その他、遺伝子組み換え作物についてやグリーンシステム、石けん運動、平和活動、脱原発やエネルギーについてといったブースも賑わいました。

来場された方からは「今まで知らなかった消費材のこだわりを聞いて良かった」「木の砂場（こどもコーナー）や親子でワークショップなど子どもたちも楽しめた」などの声が聞かれ、美味しいだけではなく、ワイワイガヤガヤとつながった楽しい生活クラブらしい一時を過ごしました。



### さっぽろ 高齢者福祉生協

## 「リビング・オブ・ザ・イヤー 2014」《優秀賞》受賞

9月12日、東京（日本教育会館）にて、高齢者住宅経営者連絡協議会が主催する第1回「リビング・オブ・ザ・イヤー 2014 / 最終選考・公開プレゼンテーション」が開催されました。

大会には過去3年以内に開設された高齢者住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアハウス、分譲型ケア付きマンション）の中から、先進的な取り組みをしている61ホームがエントリー。



公開プレゼンテーションでイリス南郷通について説明する柿原尚美施設長

福祉生協からは「サ

ービス付き高齢者向け住宅・イリス南郷通」が参加し、最終選考対象の7ホームに選出されました。

公開プレゼンテーションでは、有識者や利用者から選ばれた100名の選考委員を含め総勢700名の聴衆が見守る中、7ホームの代表者が、それぞれの取り組みを紹介。イリス南郷通からは柿原施設長が、「10分」という短い制限時間ながら精一杯のプレゼンテーションを行いました。

イリス南郷通は最優秀賞こそ逃したものの《優秀賞》を受賞。関東以北では1ホームだけの受賞となりました。これも組合員の皆様のご理解とご支援のおかげと感謝しております。いつか最優秀賞受賞をご報告できるよう、これからも職員一同頑張っていく所存です。



リビングオブザイヤー  
2014 公式ロゴマーク

## ～平成26年度灯油意見交換会開催～

11月12日1時半より、札幌第一合同庁舎6Fに於いて「平成26年度北海道地域灯油意見交換会」が経済産業省主催で開催され、山口専務が消費者代表の一人として参加し意見交換してきましたので報告致します。

会には、行政・業界・消費者団体より21名の参加に加えてオブザーバーとマスコミからも多数が参加しました。

主催者挨拶の後、基調説明「石油製品の安定供給にむけた取り組みについて」、概況説明①「我が国の灯油需要について」②「我が国の灯油価格について」があり、その後意見交換に移りました。

意見交換では、事前に提出した意見書に基づいて行

政・業界団体から回答説明がありそれを受けて消費者代表より意見が出されました。山口専務からはこの間コープさっぽろと協同で取り組んだ「福祉灯油実態調査」について報告し、道は福祉灯油の充実と国への交付金助成の働きかけを強めて欲しいと要望し、道からは検討するとの回答がありました。後日の「高橋はるみ知事の、電気料金再値上げの影響緩和を考えて、市町村の福祉灯油制度に対する道からの助成金について、5割引き上げるとの発表」に繋がりました。

今後の灯油問題の取り組みは、12月に「2014年度灯油問題対策委員会」開催、1月の行政・業界団体への要請行動につなげる計画となっています。